

てだこ浦西駅交通結節機能強化

整備計画（案）

目 次

1. てだこ浦西駅交通結節機能強化整備計画の検討背景	… p. 1
2. 整備方針	… p. 4
3. 整備イメージ（具体的な機能）	… p.10
4. 整備手法と各実施主体の役割	… p.25
5. 今後の検討について	… p.29

1. てだこ浦西駅交通結節機能強化整備計画の検討背景

1. てだこ浦西駅交通結節機能強化整備計画の検討背景

1-1. 検討の背景・目的

2

【沖縄都市モノレール、てだこ浦西駅の整備背景】

- 沖縄都市モノレールは開業から20年が経過、県民、観光客の足として利用され、まちづくりの推進や交通渋滞の緩和に大きな効果を発揮している。
- 終点のてだこ浦西駅については、沖縄自動車道との接続による広域交通軸を形成し、本島中北部地域からの定時・定速性、時間短縮等の利便性向上の観点から整備された。

【現状の課題】 ※詳細は次ページ参照

- 現時点において、てだこ浦西駅は各交通機関との結節機能が不十分であり、広域的な利用の観点から改善が求められている。
- 駅周辺のまちづくりが進むなか、交通結節機能の強化・利便性向上・にぎわい創出等が求められている。

【整備計画の検討】

沖縄都市モノレールてだこ浦西駅（駅周辺の交通広場及び高架下等を含む）の交通結節機能強化に関する整備計画の策定に向け、駅に求められる乗換機能の強化及び利便性向上、賑わい創出等に関して、多様な意見を取り込みながら検討に取り組む。

交通結節点のイメージ

交通結節点とは、複数の交通手段をつなぐ施設であり、快適性・利便性の向上が求められているほか、近年、都市化の進展に伴い、求められる機能も多様化している。

出典：沖縄県総合交通体系基本計画(R4年10月)



■本島の骨格を形成する公共交通体系



1. てだこ浦西駅交通結節機能強化整備計画の検討背景

1-2. 上位関連計画（てだこ浦西駅に求められる機能）

3

指針

（交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン（R3年4月））

交通拠点に求められる具体的な機能として、交通機能（基本機能、交通結節機能）、防災機能、交流等機能（地域の拠点・賑わい機能、サービス機能、景観機能）がある。¹⁾

県の上位計画

（沖縄県総合交通体系基本計画（R4年10月）等）

- 幸地IC（仮称）との結節を図り、中部方面以北からの路線バスやP&Rによる利便性を高める²⁾⁴⁾
- パーク＆ライド駐車場の利用促進、高速バスとの結節、シェアサイクル及びレンタカーとの連携²⁾³⁾⁵⁾
- ★まちづくりと連携した交通結節点の整備を促進³⁾ 観光、私事や買物等の利用促進に向けたイベント実施の継続⁴⁾
- 観光二次交通の交通結節点の整備を促進³⁾
- バス停上屋の整備、デジタルサイネージ・動的データのオープン化⁵⁾

●広域移動手段関係 ■駅の有する機能の関係 ▲浦添市内の周辺地域との連携関係 ★まちづくり、賑わい関係

浦添市の関連計画

（浦添市地域公共交通計画（R6年2月）等）

- 総合交通結節点として整備（交通結節、交流機能、景観、防災等）
- ▲今後市内で検討するコミュニティバス、小型モビリティとの連携強化⁶⁾
- ★大型商業施設、フィットネス施設、オフィス等の誘致による多機能拠点の形成（にぎわい）⁷⁾
- ▲地区内事業者の協力による防災への取組⁷⁾

- 1)：交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン（R3年4月 国土交通省道路局）
2)：新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（R4年5月 沖縄県）
3)：沖縄県総合交通体系基本計画（R4年10月 沖縄県）
4)：沖縄県地域公共交通計画（R6年5月 沖縄県）

- 5)：TDM施策推進アクションプログラム（R4年12月 沖縄県）
6)：浦添市地域公共交通計画（R6年2月 浦添市）
7)：てだこ浦西駅周辺スマートシティマスタープラン（R4年3月 浦添市）



主な目標

- ① 高速道路との結節・連携（各種バスとの結節、P&R促進、レンタカー連携等）
- ② 乗換機能強化（端末・二次交通との結節、多様なモビリティ確保、乗換案内強化）
- ③ まちづくりと連携した拠点形成（にぎわい創出）

2. 整備方針

【交通結節点としての現状】

- てだこ浦西駅の交通結節機能として、P&R駐車場や駅前広場は既に整備されているが、バスとの結節など多様な交通機能の確保や、観光機能、商業機能、情報発信機能などについては十分とは言えない状況である。



■ 交通結節点として考えられる機能とてだこ浦西駅の現状（参考）

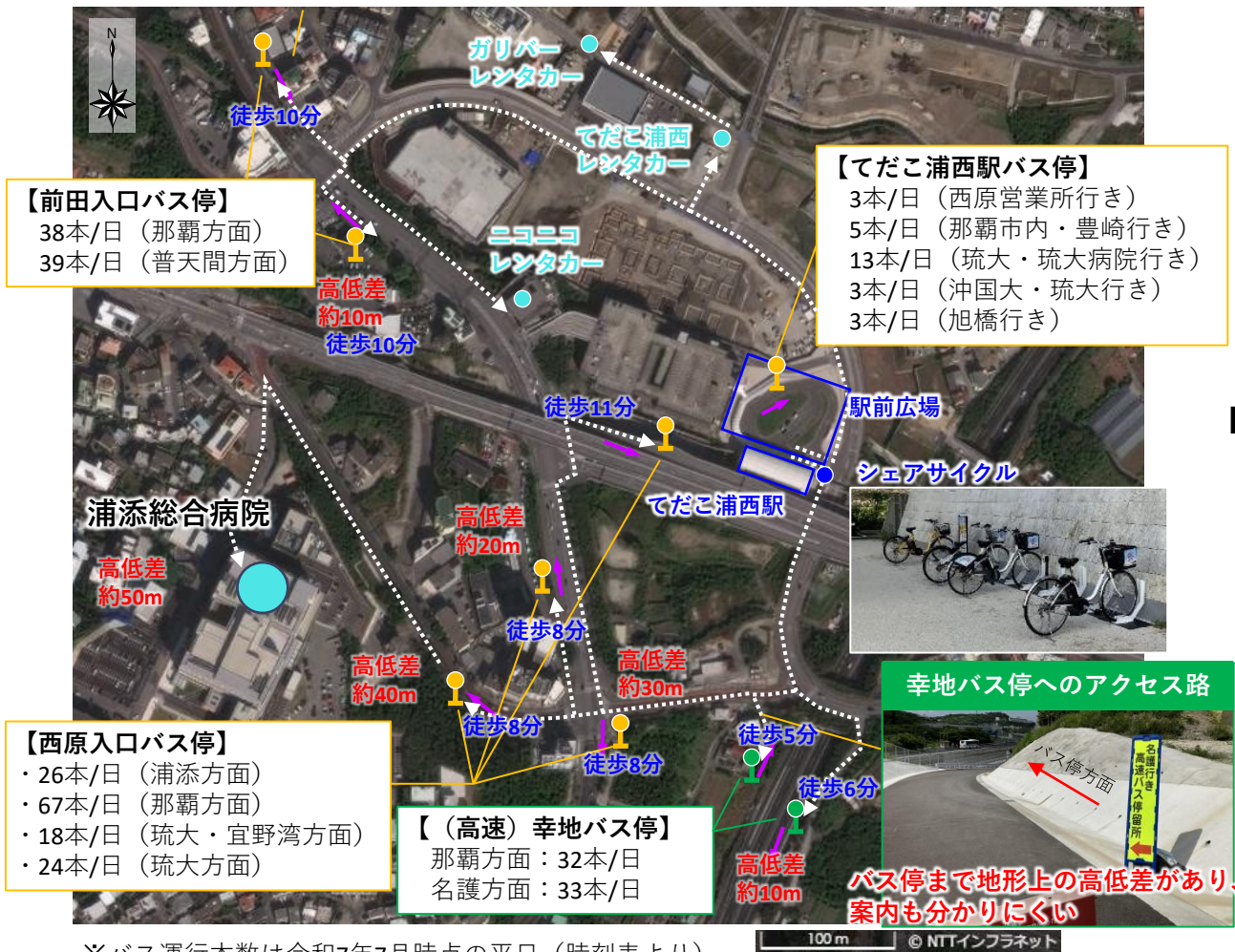
交通結節点として考えられる機能 (H20年度業務にて整理した機能)		てだこ浦西駅の交通結節点としての現状（R6年度）	
交通結節・連携機能		△	P&R駐車場やK&R・タクシー・バスのバース整備済みだが、利用促進における課題あり
交流機能		△	交通広場で不定期のイベント開催はあるが、常時人が集うような施設等が不足
観光機能		×	観光案内等が不足
道の駅機能・商業機能		×	地元の土産物や地域の体験等は提供されず
情報発信機能		×	交通情報や魅力的な情報は提供されず
沖縄都市モノレールと 沖縄自動車道との結節点における導入機能	パークアンドライド駐車場	○	駅隣接P&R駐車場整備済
	駅前広場	○	自家用車、バス、タクシー等の停車スペースあり
	モノレールとバスの結節施設及びバスターミナル	×	周辺にバス停が点在、バスターミナル機能は未達
	レンタカーデポ	×	レンタカーを集約する機能・場所等は存在せず
	交通・案内情報施設	×	所要時間などのリアルタイムの情報提供は存在せず
	道の駅機能	×	地元の土産物等の扱いなし

備考：「平成20年度 沖縄都市モノレール沿線まちづくり基本計画（沖縄県）」を参考に作成

2. 整備方針

2-1. てだこ浦西駅における現状と課題

- バス停点在：駅前、駅近隣に多様な方面の路線バス停があるが、それぞれが離れて点在している
- 情報案内：上記の点在バス停や、駅周辺のレンタカーや施設への案内が不足している
- 休憩施設：駅及び周辺の暑さや雨風をしのげる十分な待合室等がない。



■ 周辺バス停の案内



- ✓ 案内チラシが分かりにくい
- ✓ 案内が統一されていない

※バス運行本数は令和7年7月時点の平日（時刻表より）

2-2. てだこ浦西駅に求められる機能

➤ 現状・課題、上位計画やP I 及び検討会での意見を踏まえ「てだこ浦西駅に求められる3つの機能」を整理した。

上位計画・現状分析・PI及び検討会などから得られた意見（区分ごとに整理）

てだこ浦西駅に求められる機能

意見区分	現状分析・ヒアリング等	P I 及び検討会
二次交通の接続	✓ 駅利用者、来訪者からは、バスの遅延に対応したリアルタイム情報等のニーズが出ている ✓ バス事業者より、結節機能の強化の必要性は認識しつつ、現状路線の活用、利用増が優先と意見あり	✓ P&R駐車場の不足を補う視点でも、公共交通や新たな交通へのシフトを目指す（近隣市町村からの駐車場利用動向を踏まえ） ✓ リアルタイム案内情報の整備 ✓ 高速バスとの連携（駅～高速バス停間の案内強化、動線快適性向上）
新たなモビリティ	✓ 駅利用者、来訪者などから、カーシェアや電動キックボード等のニーズが出ている	✓ レンタカー機能（受渡）などの整備 ✓ 駅～高速バス停間動線快適性向上
P&R駐車場、駐輪場	✓ 来年度以降も駐車場利用者の増加は確実視され、P&R駐車場不足は確実 ✓ 利用者からも駐車容量増のニーズが多い	✓ 幸地IC開業も見据えた受け入れ環境の整備 ✓ 近隣市町村からの移動手段について、自動車以外へシフトする方法を検討
賑わいの創出	✓ カフェや飲食施設、休憩スペースなど、周辺開発では網羅できない施設、人が集まる空間、子供が遊べる空間など多様なニーズが見られる	✓ 日常利用の飲食・休憩施設の整備 ✓ てだこ浦西駅の目的化（非日常的な施設・体験）を目指す ✓ 高架下活用の視点も含め検討
観光面、防災面	✓ 来訪者からは、観光情報の提供充実、お土産品の充実等のニーズがある ✓ 関係者からは、本島中北部の広域観光情報だけでなく、浦添市内の観光情報の提供意向もある	✓ 安全安心な周辺のまちづくり（歩道環境、街灯、信号機等） ✓ てだこ浦西駅のブランディング

交通（乗換）機能の充実

広域拠点、地域拠点を目指し、バス等の二次交通の機能拡大や集約、案内の充実、待合環境強化が必要（駅周辺と連携したレンタカー機能等も配置）

周辺施設へのアクセス利便性向上のため、多様なモビリティの充実が必要

各駐車場の効率的な活用及び容量確保が必要（公共交通へのシフト策と併せて、駐車場の受入環境の整備に取り組む）

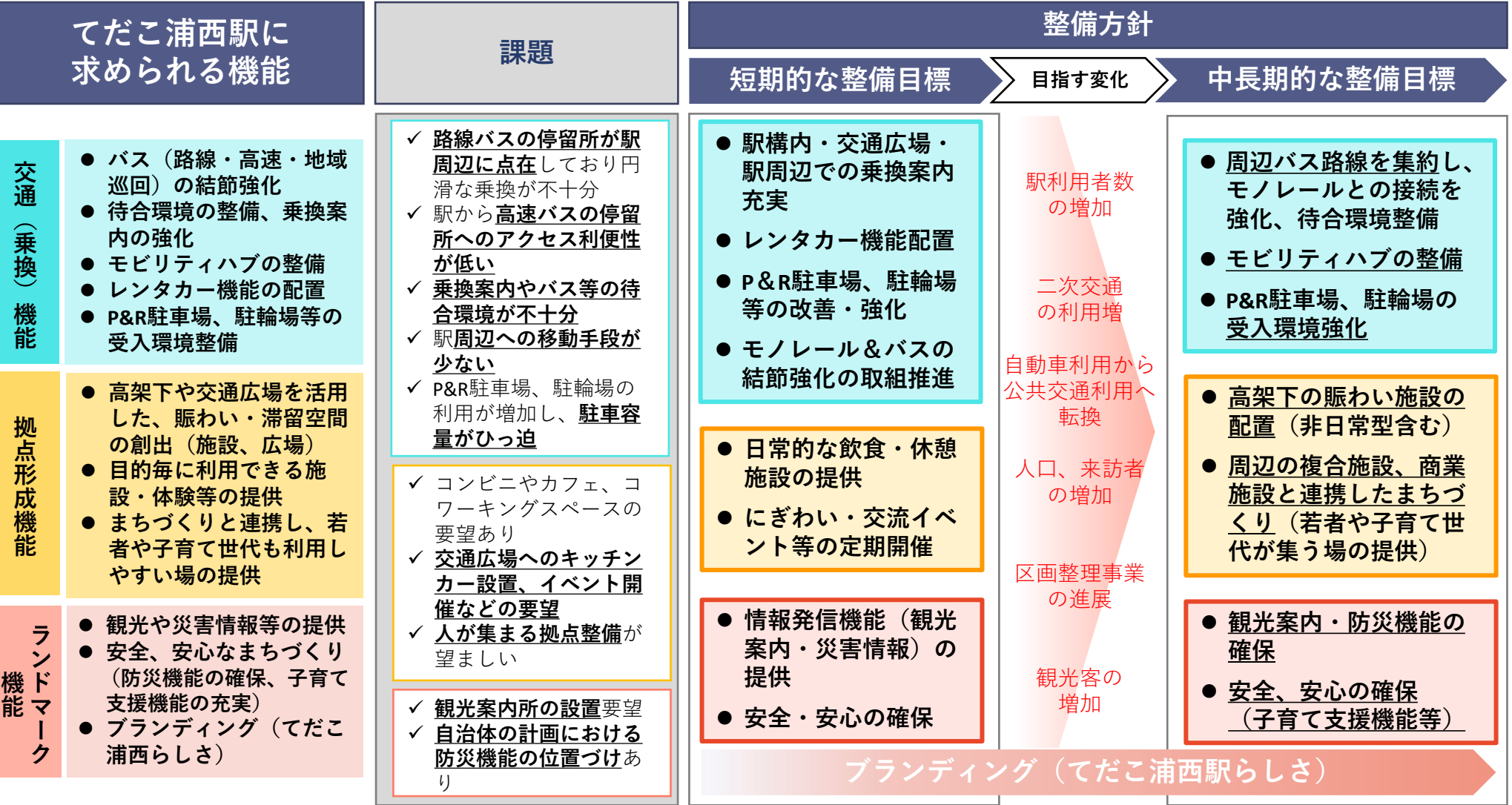
拠点形成機能の充実

利用者、市民、関係者から賑わい施設の充実が求められているため、高架下や歩行空間を活用した施設、イベント等の実施が必要（日常・非日常の使い方ができるよう目的化）

ランドマーク機能の充実

本島中北部への広域観光案内・防災機能の充実が必要 + 安全安心確保、ブランディング

- てだこ浦西駅に求められる機能の充実を図るため、課題を整理し、必要な整備内容を整理。
- 整備においては、てだこ浦西駅を取り巻く環境の変化も踏まえ、段階的な整備を行うものとする。



2. 整備方針

2-3. 整備方針（コンセプト）

9

- コンセプト
1 モノレール・バス・レンタカーほか多様なモビリティツールが集約し、多方面にシームレスな乗り継ぎ環境を構築
- コンセプト
2 日常生活に必要な機能が集積し、目的地としても訪れたいような「賑わい」と「コミュニティ」を創出
- コンセプト
3 観光案内・災害情報等の発信機能を備え、誰もが便利かつ安全安心な利用空間を提供



イメージ図：交通結節点として目指す姿

※1：沖縄県総合交通体系基本計画

交通機能（乗り継ぎ環境）

- バス（路線・高速・地域巡回）の結節強化
- 待合環境の整備、乗換案内の強化
- モビリティハブの整備
- レンタカー機能（受渡）の配置
- P&R駐車場、駐輪場等の受入環境整備

3つの機能が連携

拠点形成機能（にぎわい創出）

- 高架下や交通広場を活用した、賑わい・滞留空間の創出（施設、広場）
- 目的毎に利用できる施設・体験等の提供
- まちづくりと連携し、若者や子育て世代も利用しやすい場の提供

ランドマーク機能

- 観光や災害情報等の提供
- 安全、安心なまちづくり（防災機能の確保、子育て支援の機能充実）
- ブランディング（てだこ浦西らしさ）



イメージ図：交通ネットワーク強化